

広報

もりの 中部の森林



写真：美ヶ原のレンゲツツジ(中信森林管理署職員撮影)

私の森語り「山を愛する人材を育てる」
白鳥林工協業組合 美谷添 里恵子

各地からの便り

- ・管内各地での植樹祭行事 ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、
中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局



2024/No.243

上田・佐久地域の植樹祭行事

【東信森林管理署】

五月二十五日、青木村の「青木村及び上田市共有財産組合林」において、UE森二〇二四（上田地域にぎやかな森づくり）植樹の集いが開催されました。当日は長野県上田地域振興局、青木村、当署を含む林業関係機関・団体、協定企業九社、青木村みどりの少年団、長野大学の学生など約二五〇名が参加し、二人一組となりカラマツ約四、〇〇〇本を植樹しました。参加者からは「穴を掘るのに苦労したけれど、植えた苗木が大きく育つのが楽しみ」といった声が聞かれました。

五月二十九日には北相木村「長者の森」で、第三十三回佐久地域森林祭を兼ねた第七十四



回長野県植樹祭(佐久会場)が開催されました。前日の大雨から一転して絶好の植樹日和となり、長野県知事、佐久地域の市町村長、中部森林管理局長をはじめ、北相木村みどりの少年団、職場体験として前日から来署していた佐久市立臼田中学校の生徒を含む約二三〇名が参加し、カラマツなど約一、六〇〇本を植樹しました。昨年に引き続き、当署からパワーアシストドリル「植穴名人」を三台持ち込み、コンテナ苗を効率よく植栽できる様子を実演すると、製品価格など多くの質問が職員へ寄せられました。

これに先立ち、管内では五月十日に南牧村植樹祭が八ヶ岳ふれあい公園で、五月十五日に川上村植樹祭が高登谷湖畔で開催されました。両村ともレタスなど高原野菜の産地

として知られていますが、南佐久南部森林組合長でもある川上村の由井村長の「川上村は明治時代からカラマツ苗木の産地で、現在レタス畑となっている畑も、かつてはカラマツの苗畑だった」との挨拶に、時代の移り変わりを感じました。

今後も地域との連携を図りながら森林づくり活動を進めてまいります。



カラマツを植える参加者～UE森～



臼田中学校の生徒とともに～佐久地域森林祭～



立派に育ってね～佐久地域森林祭～



記念植樹を行う森谷局長と小学生

とやま森の祭典二〇二四
「ちきゅうがみどりになるように
みんないっしょにつたつて！」

【富山森林管理署】

五月十九日、富山県魚津市の桃山運動公園において「ちきゅうがみどりになるように」をテーマにしよにてつだつて！をテーマに「とやま森の祭典二〇二四」が開催され、約二千人が植樹や会場での催し会に参加しました。

会場周辺では、県内外の関係機関による展示・物販があり、当署からは、森林の役割や国有林をパネルで紹介するとともに、木工クラフトの体験ブースを出展し、多くの家族連れで賑わいました。体



子供たちで賑わう木工クラフトの体験ブース

式典では、富山県佐藤副知事の挨拶をはじめ、緑化活動の功績に対する表彰等が行われました。その後の来賓による記念植樹では、森谷局長が富山県産の優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植樹を行いました。

愛知県植樹祭
愛知県では、五月十八日、尾張旭市において、県等が主催する植樹祭が行われ、中部森林管理局からは、名古屋事務所、愛知森林管理事務所が参加しました。



木工クラフトに熱中する児童

験した子供たちからは「楽しかった」「おもしろかった」との声が聞かれました。



平成18年5月に行われた第57回全国植樹祭記念式典の様子（植樹祭記念式典会場設置の看板写真）。後方にお手植えされた木が見えます。

中部森林管理局管内で行われた
全国植樹祭のその後
五月は各地で植樹行事が行われましたが、五月二十六日には岡山県で、天皇后陛下の御臨席のもと、「晴れの国 光で育つ 緑の心」をテーマとして第七十四回全国植樹祭が行われました。
中部森林管理局管内では、平成十八年に岐阜県下呂市、平成二十八年に長野県長野市、平成二十九年に富山県魚津市、令和元年に愛知県尾張旭市・名古屋市内において、各県二回目の全国植樹祭が行われています。このうち、当時の両陛下のお手植えから十八年が経過した、岐阜県下呂市の樹木の様子を一〇ページで紹介しています。

木曾郡植樹祭

【南木曾支署】

五月十七日、令和六年度木曾郡植樹祭が、第七十四回長野県植樹祭の木曾会場での行事を兼ねる形で、南木曾町読書の柿其国有林において開催されました。当日は郡内の町村長・地元議会、官公署、



植樹祭の開会式に臨む参加者

林業関係者など約一二〇名が参加し、二人一組となり約四〇〇本のスギのコンテナ苗を植えました。植樹作業では、植えた木がニホンジカなどの野生鳥獣に食べられる被害にあわないように、苗木を一本ずつ守るための保護材の設置も併せて行われました。「みどりの少年団」として地元南木曾小学校五年生二十九名の参加もあり、児童からは、「鍬で土を掘ることは大変だったけど、大きく育つてきれいな森になったらうれしい」といった感想や「この植えた木はどのくらいで伐るのかな？」など



2人一組で苗木を植えるみどりの少年団

の質問がありました。現地に直径五〇センチほどの切株があったので「この根っこ位の太さになったらかな」と答えると、苗木と切株の太さの差に驚いた様子でした。閉会式では、みどりの少年団から、森林や木の文化を学び、安心して暮らせるみどり豊かな環境を守り育てる「みどりの宣言」が行われ、植樹祭を終えました。



記念標柱を建立する関係者

今回の植樹祭を含め、地元自治体や関係機関との協力体制は重要であり、今後も森林に関わる様々な場面での連携をさらに進めてまいります。



閉会式で「みどりの宣言」を読み上げる様子

【北信森林管理署】
戸隠森林植物園の開園準備
「多くの方々の来園に備えて」



【北信森林管理署】

四月二十二日、長野市の国有林に設定されている戸隠森林植物園において、四月二十七日の開園に向けた準備作業を北信森林管理署の職員ほか、関係機関・団体など総勢約九十名で行いました。

本作業は、「野鳥の宝庫で地域の重要な観光資源である自然豊かな植物園をマンパワーによる手作りの保全管理活動により守っていく」との趣旨のもと、令和四年度から実施しています。同植物園の管理運営に携わる多くの関係者が組織の垣根を越えて一堂に会し、さらに、活動の趣旨に賛同していただいた県内外の企業や団体もボランティアとして参加しました。

当日は天候にも恵まれ、また、多くの報道機関が取材をする中、参加者の皆さんは一齐に広い園内の各所に散らばり、遊歩道や橋梁

の補修・整備、ウッドチップの敷設やグリーンロープの設置、看板標識類の設置など、様々な作業に従事しました。

手作り感が漂う木橋や、安全で歩きやすくなった遊歩道など、園内は新たな衣装を纏っていくように整備され、無事、開園の準備が整いました。参加者の皆さんは心地よい疲労感と達成感の中、満面の笑みを浮かべていました。

今回の植物園の整備のために資材やウッドチップを提供していただいた長野国有林森林整備協会北信支部、オフィシャルサポーターの(一財)日本森林林業振興会長野支部、資材運搬にご協力いただいた信州林業株式会社、そしてボランティアとしてご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

今後多くの観光客の方々に植物園や戸隠でのひとときを楽しく過ごしていただけることを願っています。



ウッドチップ敷設作業



遊歩道の補修作業

参加機関・団体等一覧

関係機関及び団体	ボランティア参加
環境省	ベルトラ株式会社
長野県 長野地域振興局	長野国有林森林整備協会 北信支部
長野市観光振興課 北部産業振興事務所	ドコモCS長野支店
一般社団法人 戸隠観光協会	北信五岳トレイルランニング グレース実行委員会



開園準備作業に参加いただいた皆さん